

2019年度 授業評価アンケート報告書

関西学院大学経営戦略研究科

本報告書の概要

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において2019年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2019年度に開講された362講義である。2019年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,764人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は3,369人であり、アンケート調査の回答率は89.50%であった。

学生による評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についての質問となっており、いずれの設問も5段階評価で回答することとなっている。

今回の学生によるアンケート結果からは、経営戦略研究科の学生の、授業に対する満足度に関する評価は概ね高い水準を維持している。設問13の「この授業は全般的に満足のものだったか。」のスコアは、通年で4.56、春学期が4.57、秋学期が4.54であり、十分に高い水準であると考えられる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2019年度も通年で4.8と高い水準を保っている。つまり、担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。

他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定を充実させる工夫が必要となろう。

経営戦略研究科所属教員による担当科目の自己評価については、各専攻の特徴を踏まえてコア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて考察した。

まず、企業経営戦略コースでは、教員は概ね理論と実践のバランスに力を入れており、グループディスカッション等の方法を取り入れることとゲストスピーカーの実務家を活用するなどの特徴が見られた。総じて、実務での応用への橋渡しなどを意識している喜寿が多かった。

コア科目群では、基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、また、ビジネスに直結して応用させることが意識されていた。ベーシック科目群については「基礎的な知識を体系だてる」など基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多かった。アドバンスト科目群では、発展的な科目という性質から、高い分析力を要求する科目も見られた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多く、課題研究では研究内容の充実とスムーズな進め方が挙げられていた。

力を入れた点と実施して良かった点は同じ内容のものが多いが、今年度からWEB上での調査に変わっているので、その相違について分析が進むものと考えている。

国際経営コースでは、学生の評価と教員の取り組みと学生の評価の間に明確な関係が見られなかった点が問題となっている。その原因は明確ではないが、質問項目の変更や教員の取り組みに関して個別に検討する必要があると思われる。

会計専門職専攻では、例年細かな達成度合いについて数量的な把握を行っており、詳述は本文を参照されたい。その中でも学生の予備知識についての不足が指摘されており、そのための対応策が必要とされるだろう。

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2019年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、2019年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、集計結果表（全体・履修人数・専攻・コース・科目別）、教員の担当科目自己評価表およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。

2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏季集中）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター、冬季集中）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

（1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2019年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目（複数クラス開講分を含む。ただし、調査回答が全て白紙または未提出の科目（2019年度は2講義 各履修者数1名・1名が該当）は含めない）は、362講義（春学期187講義、秋学期175講義）である。その内訳は、経営戦略専攻が216講義（企業経営戦略コース155講義、および国際経営コース71講義）、会計専門職専攻が136講義であった。

(2) 回答者、回答率等について

2019年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,764人(延べ人数、以下同じ)で、そのうち、春学期が1,885人、秋学期が1,879人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は3,369人(春学期1,705人、秋学期1,664人)であり、アンケート調査の回答率は89.50%(春学期90.45%、秋学期88.55%)であった。各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は2,706人(企業経営戦略コース2,168人および国際経営コース538人)で、そのうち、春学期は1,347人(企業経営戦略コース1,082人および国際経営コース265人)、秋学期は1,359人(企業経営戦略コース1,086人および国際経営コース273人)であった。アンケート調査の回答者数については、2,453人(企業経営戦略コース1,962人および国際経営コース491人)であった。そのうち、春学期は1,231人(企業経営戦略コース985人および国際経営コース246人)、秋学期は1,222人(企業経営戦略コース977人および国際経営コース245人)であった。回答率は90.6%(企業経営戦略コース90.4%および国際経営コース91.2%)である。そのうち、春学期は91.3%(企業経営戦略コース91.0%および国際経営コース92.8%)、秋学期は89.9%(企業経営戦略コース89.9%および国際経営コース89.7%)であった。また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1058人(春学期538人、秋学期520人)で、アンケート調査の回答者数は916人(春学期474人、秋学期442人)あり、その回答率は86.5%(春学期88.1%、秋学期85.0%)であった。

(3) 実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2019年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2019年5月21日(火)～5月28日(月)
第2クォーター開講科目：2019年7月16日(火)～7月22日(月)
夏季集中講義開講科目：2019年7月30日(火)～8月11日(日)
第3クォーター開講科目：2019年11月2日(土)～11月8日(金)
第4クォーター開講科目：2019年1月6日(月)～1月12日(日)
冬季集中講義開講科目：2019年1月26日(日)～2月28日(金)

(4) アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。

- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、オンラインで実施し、選択形式の9つの設問と自由記述形式の3つの設問からなっている。

（5）集計

2019年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

(1) 概観

以下では、2019年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている2009年度以降の結果と比較して分析していく。表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2019年度の数字を平均したものである）。

2019年度の全科目群（表1）の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のものでしたか。」のスコアは、通年で4.53、春学期が4.54、秋学期が4.53であり、十分に高い水準であると考えられる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2019年度も通年で4.81と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、前年度まで継続して見られていたことであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、比較して低い状況が続いていたが、2018年度から大幅に改善され、2019年度も継続しており（設問10: 4.20(平均4.07)、設問11: 4.22(平均3.96))、授業アンケートの結果を受けての各教員の改善努力が功を奏していると推察される。

過去の平均との比較では問題はないものの、2018年度との比較で見ると、秋学期の評点が全設問において下がっている。春学期と比較すると、平均スコアの値そのものに大きな違いはなく、むしろ2018年の秋学期の評価が相対的に高かったと見るべきであろう。しかしながら、評点が下がったのは事実であり、2018年度との比較において評点が低くなっている教科を中心にその原因を追求する必要があるだろう。

表1：全科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
2014	4.57	4.57	4.74	4.42	4.48	4.23	4.32	4.22	4.57	4.06	3.87	4.13	4.40	4.46
2015	4.59	4.62	4.74	4.46	4.54	4.29	4.35	4.32	4.60	4.02	3.86	4.16	4.44	4.51
2016	4.55	4.63	4.73	4.41	4.47	4.23	4.33	4.22	4.53	4.03	3.82	4.16	4.39	4.46
2017	4.60	4.61	4.76	4.42	4.48	4.19	4.31	4.18	4.57	4.02	3.88	4.12	4.37	4.46
2018	4.65	4.69	4.78	4.50	4.55	4.35	4.36	4.41	4.65	4.10	4.17	4.26	4.49	4.56
2019	4.62	4.69	4.82	4.55	4.60	4.40	4.44	4.41	4.67	4.18	4.24	4.31	4.54	4.60
平均	4.56	4.60	4.73	4.41	4.48	4.22	4.28	4.24	4.56	4.04	3.92	4.14	4.38	4.40

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32
2014	4.61	4.63	4.74	4.49	4.54	4.33	4.37	4.29	4.60	4.13	4.00	4.20	4.43	4.52
2015	4.62	4.66	4.75	4.49	4.57	4.37	4.38	4.36	4.64	4.08	3.98	4.25	4.46	4.50
2016	4.63	4.67	4.80	4.51	4.46	4.28	4.36	4.28	4.59	4.02	3.88	4.18	4.49	4.54
2017	4.66	4.72	4.82	4.53	4.53	4.37	4.36	4.33	4.64	4.09	3.97	4.25	4.51	4.57
2018	4.74	4.74	4.81	4.63	4.70	4.54	4.51	4.50	4.74	4.29	4.30	4.41	4.63	4.67
2019	4.63	4.67	4.80	4.52	4.56	4.40	4.43	4.41	4.65	4.23	4.20	4.34	4.53	4.59
平均	4.60	4.63	4.74	4.47	4.50	4.30	4.34	4.32	4.59	4.09	4.01	4.21	4.43	4.45

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36
2014	4.59	4.60	4.74	4.45	4.51	4.28	4.34	4.26	4.58	4.09	3.92	4.16	4.41	4.49
2015	4.60	4.63	4.74	4.48	4.55	4.33	4.37	4.34	4.62	4.05	3.91	4.20	4.45	4.50
2016	4.59	4.65	4.77	4.46	4.46	4.26	4.34	4.25	4.56	4.02	3.85	4.17	4.44	4.50
2017	4.63	4.66	4.79	4.47	4.50	4.28	4.33	4.25	4.60	4.05	3.92	4.18	4.43	4.51
2018	4.69	4.72	4.79	4.57	4.62	4.45	4.44	4.46	4.69	4.20	4.23	4.34	4.56	4.62
2019	4.63	4.68	4.81	4.53	4.58	4.40	4.44	4.41	4.66	4.20	4.22	4.32	4.53	4.60
平均	4.58	4.61	4.74	4.44	4.49	4.26	4.31	4.28	4.58	4.07	3.96	4.17	4.41	4.43

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。コア科目については、春学期は14の設問中10問で昨年水準を上回っているが、秋学期は全設問で、通年においては14の設問中13が昨年水準を大きく下回っている。ベーシック科目については、春学期は14の設問中9問で昨年水準を上回っているが、秋学期、通年においては全設問で昨年水準を大きく下回っている。最後にアドバンスト科目は、春学期は14の設問中2問、秋学期は14の設問中9問、通年は14の設問中6問で昨年水準を下回っている。以上のことより、コアとベーシックの秋学期に開講された科目を中心に評点を下げた原因を担当教員にも確認する必要がある。

表2：コア科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
2014	4.49	4.52	4.80	4.44	4.32	4.11	4.20	4.10	4.50	4.04	3.66	4.00	4.30	4.40
2015	4.48	4.46	4.75	4.28	4.39	4.03	4.20	4.15	4.43	3.76	3.55	3.86	4.25	4.36
2016	4.43	4.57	4.70	4.29	4.27	4.15	4.25	4.07	4.37	3.92	3.63	4.01	4.23	4.33
2017	4.52	4.51	4.79	4.37	4.39	4.09	4.28	4.11	4.44	3.86	3.56	3.92	4.27	4.38
2018	4.52	4.60	4.81	4.42	4.41	4.16	4.17	4.21	4.58	4.08	4.00	4.05	4.32	4.42
2019	4.54	4.58	4.77	4.47	4.46	4.26	4.25	4.24	4.55	4.08	4.11	4.11	4.38	4.51
平均	4.43	4.46	4.70	4.28	4.28	3.99	4.10	4.01	4.41	3.91	3.68	3.88	4.15	4.22

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23
2014	4.50	4.55	4.75	4.40	4.29	4.14	4.24	4.15	4.49	4.03	3.72	3.97	4.21	4.33
2015	4.50	4.53	4.76	4.31	4.39	4.17	4.33	4.30	4.51	3.94	3.64	4.06	4.28	4.33
2016	4.39	4.47	4.73	4.32	4.01	4.02	4.23	4.22	4.24	3.74	3.58	3.90	4.25	4.27
2017	4.48	4.56	4.76	4.42	4.23	4.11	4.19	4.25	4.40	3.88	3.60	3.98	4.29	4.36
2018	4.68	4.73	4.84	4.52	4.48	4.47	4.44	4.51	4.63	4.01	4.12	4.20	4.56	4.57
2019	4.45	4.56	4.77	4.36	4.26	4.19	4.25	4.20	4.41	3.88	3.99	4.02	4.26	4.38
平均	4.46	4.49	4.69	4.32	4.19	4.06	4.20	4.20	4.41	3.93	3.77	3.96	4.20	4.23

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
2014	4.50	4.53	4.78	4.42	4.31	4.12	4.22	4.12	4.49	4.04	3.69	3.99	4.26	4.37
2015	4.49	4.49	4.76	4.29	4.39	4.09	4.25	4.21	4.46	3.83	3.59	3.94	4.26	4.35
2016	4.41	4.51	4.71	4.31	4.14	4.08	4.24	4.15	4.30	3.83	3.60	3.95	4.24	4.30
2017	4.50	4.54	4.77	4.40	4.30	4.10	4.23	4.18	4.42	3.87	3.58	3.95	4.28	4.37
2018	4.58	4.65	4.82	4.46	4.44	4.28	4.28	4.33	4.60	4.05	4.05	4.11	4.42	4.48
2019	4.49	4.57	4.77	4.42	4.36	4.23	4.25	4.22	4.48	3.98	4.05	4.07	4.32	4.44
平均	4.45	4.47	4.70	4.30	4.24	4.02	4.14	4.09	4.41	3.91	3.72	3.92	4.18	4.22

表3：ベーシック科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
2014	4.55	4.51	4.68	4.31	4.47	4.10	4.27	4.12	4.49	3.99	3.73	4.00	4.30	4.37
2015	4.70	4.75	4.79	4.61	4.66	4.32	4.43	4.37	4.65	4.13	3.93	4.27	4.51	4.61
2016	4.53	4.62	4.71	4.40	4.54	4.18	4.34	4.22	4.54	3.98	3.76	4.12	4.40	4.47
2017	4.55	4.57	4.78	4.38	4.48	4.09	4.16	4.10	4.54	4.04	3.82	4.00	4.22	4.32
2018	4.63	4.71	4.82	4.50	4.57	4.29	4.24	4.31	4.61	4.14	4.15	4.20	4.44	4.54
2019	4.62	4.68	4.81	4.53	4.62	4.29	4.41	4.39	4.65	4.22	4.28	4.26	4.50	4.49
平均	4.56	4.62	4.74	4.41	4.52	4.18	4.23	4.21	4.54	4.04	3.85	4.11	4.37	4.39

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23
2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
2014	4.57	4.57	4.68	4.41	4.52	4.29	4.28	4.26	4.54	4.05	3.90	4.16	4.36	4.43
2015	4.69	4.64	4.75	4.53	4.53	4.31	4.29	4.37	4.61	4.02	3.80	4.16	4.45	4.47
2016	4.64	4.73	4.81	4.55	4.58	4.37	4.39	4.38	4.66	4.00	3.75	4.23	4.53	4.55
2017	4.65	4.73	4.78	4.52	4.49	4.29	4.35	4.26	4.63	4.04	3.92	4.16	4.39	4.47
2018	4.73	4.75	4.85	4.66	4.76	4.50	4.56	4.50	4.75	4.33	4.30	4.42	4.62	4.68
2019	4.63	4.65	4.76	4.50	4.52	4.32	4.38	4.35	4.59	4.22	4.06	4.30	4.45	4.53
平均	4.61	4.63	4.74	4.47	4.49	4.26	4.30	4.28	4.56	4.05	3.87	4.18	4.39	4.42

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
2014	4.56	4.54	4.68	4.36	4.50	4.20	4.27	4.20	4.52	4.02	3.82	4.08	4.33	4.40
2015	4.69	4.70	4.78	4.57	4.60	4.31	4.37	4.37	4.63	4.08	3.87	4.22	4.48	4.54
2016	4.59	4.68	4.76	4.48	4.56	4.28	4.36	4.30	4.60	3.99	3.75	4.17	4.46	4.51
2017	4.60	4.65	4.78	4.45	4.48	4.19	4.26	4.18	4.58	4.04	3.87	4.08	4.30	4.40
2018	4.68	4.73	4.83	4.58	4.67	4.40	4.41	4.41	4.68	4.25	4.23	4.31	4.54	4.61
2019	4.62	4.66	4.78	4.51	4.57	4.31	4.39	4.37	4.62	4.22	4.17	4.28	4.48	4.51
平均	4.58	4.62	4.74	4.44	4.51	4.22	4.26	4.24	4.55	4.05	3.87	4.14	4.38	4.40

表4：アドバンスト科目群（回答の平均値）
春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
2014	4.60	4.62	4.74	4.46	4.56	4.35	4.40	4.33	4.65	4.11	4.02	4.25	4.49	4.54
2015	4.58	4.63	4.71	4.48	4.55	4.41	4.39	4.38	4.66	4.09	3.97	4.26	4.51	4.54
2016	4.60	4.66	4.76	4.45	4.50	4.28	4.35	4.28	4.59	4.10	3.92	4.23	4.44	4.51
2017	4.64	4.65	4.74	4.45	4.50	4.26	4.37	4.23	4.62	4.06	4.00	4.22	4.45	4.54
2018	4.71	4.72	4.76	4.54	4.59	4.46	4.49	4.53	4.69	4.09	4.25	4.37	4.57	4.63
2019	4.66	4.73	4.84	4.58	4.64	4.50	4.52	4.47	4.72	4.19	4.27	4.39	4.62	4.68
平均	4.62	4.66	4.75	4.48	4.56	4.37	4.41	4.37	4.64	4.10	4.08	4.28	4.51	4.51

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
2014	4.68	4.71	4.79	4.59	4.65	4.43	4.49	4.37	4.69	4.22	4.18	4.31	4.58	4.66
2015	4.63	4.71	4.74	4.54	4.65	4.47	4.44	4.37	4.69	4.16	4.17	4.35	4.53	4.57
2016	4.71	4.73	4.81	4.56	4.57	4.34	4.39	4.26	4.69	4.13	4.05	4.26	4.57	4.64
2017	4.74	4.78	4.87	4.58	4.67	4.53	4.44	4.40	4.74	4.20	4.15	4.41	4.66	4.70
2018	4.76	4.75	4.78	4.64	4.73	4.58	4.51	4.50	4.76	4.34	4.34	4.46	4.65	4.70
2019	4.70	4.73	4.83	4.59	4.69	4.51	4.52	4.51	4.76	4.36	4.34	4.48	4.65	4.70
平均	4.66	4.69	4.76	4.53	4.63	4.42	4.42	4.39	4.68	4.18	4.16	4.32	4.54	4.55

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
2014	4.64	4.66	4.76	4.52	4.60	4.38	4.43	4.35	4.67	4.16	4.09	4.27	4.53	4.59
2015	4.61	4.67	4.72	4.51	4.60	4.44	4.41	4.38	4.68	4.13	4.07	4.31	4.52	4.55
2016	4.66	4.69	4.79	4.50	4.54	4.31	4.37	4.27	4.64	4.11	3.99	4.24	4.50	4.57
2017	4.68	4.71	4.80	4.51	4.57	4.37	4.40	4.30	4.67	4.12	4.06	4.30	4.54	4.60
2018	4.73	4.73	4.77	4.59	4.66	4.52	4.50	4.51	4.72	4.22	4.29	4.42	4.61	4.66
2019	4.68	4.73	4.84	4.59	4.66	4.51	4.52	4.49	4.74	4.27	4.30	4.43	4.63	4.69
平均	4.64	4.67	4.75	4.51	4.59	4.39	4.41	4.38	4.66	4.14	4.12	4.30	4.52	4.53

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は全般的に満足いくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表5：科目ごとの回答の平均値
春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	39	4.19	4.68	4.68
経営学	1	34	4.03	4.28	4.41
経営学	2	20	4.50	4.72	4.78
会計学	1	20	4.00	4.16	4.32
経済学	1	14	4.00	3.85	4.15
統計学	1	25	4.29	4.33	4.54
統計学	2	19	4.33	4.33	4.61
英語コミュニケーション	1	18	3.81	4.41	4.44
英語コミュニケーション	2	17	3.69	4.25	4.44

秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	2	44	4.42	4.69	4.75
経営学	3	28	4.19	4.70	4.74
会計学	2	43	3.97	3.94	4.14
経済学	2	19	3.19	3.63	3.81
統計学	3	38	3.74	3.80	4.03
英語コミュニケーション	3	21	4.22	4.56	4.61
英語コミュニケーション	4	20	4.12	4.53	4.47

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
経営戦略	1	44	4.34	4.37	4.34
人的資源管理	1	29	4.33	4.59	4.70
マーケティング・マネジメント	1	33	4.25	4.44	4.38
コーポレート・ファイナンス基礎	1	33	4.27	4.47	4.37
テクノロジー・マネジメント	1	31	4.36	4.75	4.68
ベンチャービジネス	1	16	3.80	4.53	4.40
公共経営論	1	17	4.14	4.86	4.43
行動科学		17	4.19	4.31	4.50
統計分析論		19	4.50	4.44	4.63
ゲーム理論	1	22	4.18	4.50	4.55
上級英語コミュニケーション	1	2	4.00	4.50	5.00

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
経営戦略	2	25	3.85	3.75	3.85
人的資源管理	2	15	4.08	4.54	4.62
マーケティング・マネジメント	2	19	4.39	4.61	4.67
コーポレート・ファイナンス基礎	2	14	4.29	4.36	4.57
財務諸表分析		44	4.27	4.50	4.57
テクノロジー・マネジメント	2	20	4.42	4.58	4.53
情報システム		22	4.45	4.52	4.67
ベンチャービジネス	2	22	4.33	4.48	4.52
ゲーム理論	2	13	4.33	4.23	4.33
会社法		25	3.79	4.00	4.21
上級英語コミュニケーション	2	8	4.50	4.75	4.63
イノベティブ・シンキング		50	4.62	4.81	4.81

春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
組織行動		36	4.21	4.62	4.74
管理会計		30	3.96	4.52	4.56
企業経営史		7	4.29	4.86	4.71
組織管理		32	4.41	4.59	4.66
人材マネジメント		15	4.47	4.73	4.73
国際経営		3	2.33	2.33	2.67
組織管理事例研究		22	4.40	4.60	4.65
中小企業経営		23	4.14	4.52	4.71
地域振興		37	4.59	4.72	4.75
Business Negotiation		3	4.33	4.33	4.33
New Global Venture Creation		2	4.50	5.00	5.00
ブランド・マネジメント		20	4.47	4.65	4.76
マーケティング・コミュニケーション	1	15	4.17	4.25	4.50
マーケティング戦略		20	4.61	4.84	4.84
流通システム		6	4.40	5.00	5.00
国際マーケティング		2	3.00	3.00	3.50
リアルオプション		13	4.31	4.54	4.46
リスクマネジメント		6	4.00	4.00	4.00
Asian Financial Market		1	5.00	5.00	5.00
行動経済学		19	4.76	4.82	4.82
製品開発事例研究		9	4.88	4.88	4.88
標準化経営戦略		10	4.11	4.44	4.44
知的財産戦略		11	4.80	4.80	4.90
Product Innovation		2	4.50	4.50	4.50
アントレプレナーシップ		8	4.67	4.50	4.67
ベンチャービジネス事例研究		14	4.55	4.64	4.73
企業倫理事例研究		3	4.67	5.00	5.00
ベンチャーファイナンス		10	4.90	4.90	4.90
企業経営戦略特論D		7	4.86	5.00	5.00
企業経営戦略特論E		37	4.36	4.64	4.70
企業経営戦略特論I		38	4.53	4.72	4.72
課題研究基礎	1	17	4.47	4.73	4.80
課題研究基礎	2	3	4.67	5.00	5.00
課題研究基礎	7	12	4.58	4.58	4.75
Advanced Topics in Business G/1		7	4.00	4.57	4.71
課題研究	1	4	4.75	4.75	4.75
課題研究	3	5	4.80	4.80	4.80
課題研究	5	4	5.00	5.00	5.00
課題研究	11	3	5.00	5.00	5.00
課題研究	15	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	17	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	21	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	23	1	4.00	5.00	5.00
課題研究	25	1	5.00	5.00	5.00
官民パートナーシップ論		6	4.67	4.83	4.83
公共経営事例研究		3	4.33	4.67	4.67
公共政策		8	4.67	4.83	4.83
自治体会計		2	4.00	5.00	5.00
自治体ガバナンス		2	4.50	5.00	5.00
病院経営事例研究		12	3.73	4.18	4.18
病院組織管理		15	4.27	4.20	4.40
医療経済学		17	4.21	4.14	4.50
病院アドミニストレーション		14	3.79	4.36	4.36
大学経営		1	5.00	5.00	5.00
地方大学経営		10	4.60	5.00	5.00
大学組織管理		1	3.00	4.00	4.00

秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設間12	設間13	設間14
コーポレート・ファイナンス応用		10	4.44	4.56	4.89
企業家論		15	4.23	4.69	4.77
NPOマネジメント		9	4.29	4.14	4.43
事業システム戦略論		17	4.53	4.60	4.60
経営戦略事例研究		12	4.36	4.55	4.64
地域振興事例研究		18	4.75	4.75	4.83
サービス・マーケティング		14	4.50	4.71	4.64
チャネル・マネジメント		1	5.00	5.00	5.00
マーケティング・コミュニケーション	2	4	4.75	5.00	5.00
営業戦略		13	3.78	4.11	4.11
消費者行動		12	4.45	4.45	4.64
ロジスティクス		7	4.17	3.50	3.83
マーケティング・リサーチ		9	4.67	4.44	4.67
Special Topics in Marketing		1	3.00	4.00	4.00
ソーシャル・マネジメント		12	4.40	4.90	4.80
証券投資		8	4.63	4.75	4.88
行動ファイナンス		4	5.00	4.75	5.00
イノベーション経営		14	4.54	4.77	4.69
製品開発		9	4.75	4.88	4.88
データマイニング		19	4.58	4.42	4.58
システム・シンキング		49	4.52	4.73	4.79
システム・デザイン演習		30	4.70	4.90	4.87
新規事業計画		27	4.42	4.42	4.54
中小企業経営革新		16	4.40	4.80	4.67
知的財産権法		9	4.63	4.88	4.63
研究開発型ベンチャー創成		13	4.38	4.69	4.69
企業経営戦略特論A		10	4.13	4.50	4.75
企業経営戦略特論B		5	5.00	5.00	5.00
企業経営戦略特論F		21	4.44	5.00	5.00
企業経営戦略特論H		8	4.40	5.00	4.80
課題研究基礎	4	18	4.69	4.69	4.81
課題研究基礎	5	4	4.00	4.00	4.75
課題研究基礎	8	3	4.00	4.00	4.50
課題研究基礎	9	8	4.67	4.67	4.67
企業経営戦略特論J		11	4.44	4.78	4.78
企業経営戦略特論K		29	4.30	4.78	4.70
課題研究	2	8	4.88	4.88	5.00
課題研究	4	5	5.00	5.00	5.00
課題研究	8	3	5.00	5.00	5.00
課題研究	12	5	4.33	4.67	5.00
課題研究	14	3	4.50	5.00	5.00
課題研究	16	8	5.00	5.00	5.00
課題研究	18	5	5.00	4.80	5.00
課題研究	20	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	22	5	5.00	5.00	5.00
課題研究	24	6	4.33	4.33	4.50
課題研究	26	2	5.00	5.00	5.00
独立行政法人経営		5	4.25	5.00	5.00
自治体会計事例研究		2	5.00	5.00	5.00
自治体財務管理事例研究		1	5.00	5.00	5.00
病院経営		18	3.80	3.87	3.80
病院会計		15	4.15	4.62	4.54
地域医療マネジメント		5	4.20	4.40	4.20
医療サービス・マネジメント		4	4.67	4.67	4.67
大学財務管理		2	5.00	5.00	5.00
大学経営事例研究		3	4.50	4.50	4.50
大学ガバナンス		3	4.67	4.33	4.67
大学運営		18	4.15	4.62	4.77

B. 教員による担当科目自己評価

本年度より、教員による担当科目の自己評価は Web 上でのアンケート形式に変更になった。主な質問項目とその集計結果を以下に示す。

1. 授業はシラバスに示した主題や目的に沿って行いましたか。
2. 学生が発言したり議論したりすることに十分配慮を払いましたか。
3. 個々の学生の内容理解の水準を考慮しましたか。
4. 学生の質問に丁寧に答えましたか。
5. この授業で学生の分析能力や批判力がついたと思いますか。
6. この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか。
7. この授業は学生の仕事や資格の取得に役立つものと考えられますか。
8. この科目を担当するにあたって力を入れたことは何ですか。(複数選択可)
9. 上記1~8の回答を踏まえて、この科目を担当するにあたって当初予定していた目標は達成されたと思いますか。

設問	期	そう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	該当しない	合計
1	秋	45	27	2	0	0	0	74
	春	45	20	0	0	0	0	65
2	秋	48	26	0	0	0	0	74
	春	42	22	1	0	0	0	65
3	秋	29	41	4	0	0	0	74

	春	26	37	1	1	0	0	65
4	秋	44	29	1	0	0	0	74
	春	49	16	0	0	0	0	65
5	秋	31	37	6	0	0	0	74
	春	24	38	3	0	0	0	65
6	秋	26	39	7	1	0	1	74
	春	32	29	2	1	0	1	65
7	秋	33	34	6	0	0	0	73
	春	30	27	7	1	0	0	65
9	秋	33	37	3	1	0	0	74
	春	28	34	2	1	0	0	65
合計		565	493	45	6	0	2	1111

殆どの教員が、「そう思う」もしくは「だいたいそう思う」と回答しており、教員として満足のいく講義を行えていることがわかる。しかし一方で、本アンケートは学生の評価と連動しておらず、双方のギャップがどこにあるのかを今後解析する必要が出てくるであろう。

経営戦略専攻・国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2019 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去 2 年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性 (Course content were highly relevant and useful for your future career)」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1 : 2019 年度授業評価結果 (2017 年、2018 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2017	4.57	4.66	4.70	4.46	4.59	4.57	4.47	4.36	4.59	4.17	4.11	4.35	4.48	4.42
	2018	4.68	4.77	4.80	4.49	4.71	4.58	4.44	4.55	4.65	4.31	4.39	4.49	4.57	4.68
	2019	4.73	4.75	4.71	4.56	4.65	4.58	4.43	4.57	4.64	4.44	4.40	4.50	4.56	4.55
秋学期	2017	4.66	4.67	4.76	4.57	4.58	4.50	4.45	4.45	4.57	4.28	4.15	4.44	4.49	4.51
	2018	4.55	4.66	4.67	4.35	4.43	4.37	4.26	4.30	4.47	4.31	4.23	4.31	4.44	4.44
	2019	4.61	4.68	4.74	4.47	4.43	4.54	4.42	4.39	4.50	4.34	4.32	4.37	4.35	4.43
通年	2017	4.62	4.67	4.72	4.51	4.59	4.54	4.46	4.40	4.58	4.22	4.13	4.39	4.49	4.46
	2018	4.62	4.72	4.73	4.42	4.58	4.48	4.35	4.43	4.56	4.31	4.31	4.40	4.51	4.56
	2019	4.67	4.71	4.72	4.52	4.54	4.56	4.43	4.48	4.57	4.39	4.36	4.44	4.46	4.49

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移している。2019 年度の数値は 2018 年に比べて多くの項目において改善が見られた。合計 14 の質問項目のうち半分の 7 項目で 4.5 点を上回り、その他の項目でも 4.0 点を下回るものはなかった。質問項目の平均が 4.5 点を上回るということは、回答者の多くが各質問に対して「Strongly Agree」、あるいは「Agree」と回答したことを示している。質問項目の全てが 4.0 点を超え、さらに、多くの質問項目の平均点が 4.5 点を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去 2 年との比較をしてみると、2018 年に評価が低下した質問項目の多く (質問項目 1「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」、4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning.」、6「Instructor's interest in whether students learned was high.」、7「The amount of work assigned was reasonable.」、9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」) において改善が見られたのも評価すべきポイントである。(若干ではあるが) 学生数が増加する中での評価の改善は評価に値するものと考えられる。一方で、二年間連続で評価が低下した質問項目 (質問項目 5「The instructor encouraged students comment and discussion.」) もあり、大きな反省と改善に向けた施策の実施が必要である。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、高い評価の3つの項目としては質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては4.72点、質問項目2「The instructor was well prepared for the classes」が4.71点、質問項目1「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」が4.67点であった。概ね昨年と同様の評価結果である。トップ3から伺えるのは、教員に対する学生の高い評価である。教員全体が継続的な教育の向上活動（FD）を行ったこと、シラバス記載の充実を組織的に推進した結果が反映されているものとする。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning.」が4.52点、質問項目9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」が4.57点、質問項目5「The instructor encouraged students comment and discussion.」が4.54点、質問項目6「Instructor's interest in whether students learned was high.」が4.56点、などであった。こちらも多少、順位の変動はあるが、例年、高評価を得ることができている質問項目である。

一方、比較的低い評価であったのは、質問項目11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が4.36点、質問項目10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が4.39点、などであった。学生側の主体的な学習への取り組み姿勢を問う質問で、こちらも例年と同様の質問項目である。経年比較では二年連続の改善はみられているものの、他の質問項目との対比では、依然として見劣りすることは否めず、継続的な改善の取り組みが必要であるものと考えられる。

表2：2019年度授業評価コア科目群結果（2017年、2018年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2017	4.44	4.52	4.58	4.42	4.27	4.31	4.17	4.04	4.40	4.00	3.79	4.02	4.15	4.19
	2018	4.64	4.66	4.80	4.58	4.74	4.54	4.50	4.56	4.66	4.16	4.28	4.24	4.44	4.53
	2019	4.57	4.58	4.49	4.51	4.53	4.49	4.34	4.45	4.51	4.36	4.38	4.39	4.32	4.43
秋学期	2017	4.66	4.65	4.75	4.63	4.72	4.39	4.33	4.38	4.57	4.26	4.11	4.25	4.35	4.42
	2018	4.49	4.49	4.49	4.32	4.26	4.03	4.13	4.42	4.41	4.15	3.92	4.08	4.36	4.38
	2019	4.59	4.70	4.76	4.55	4.57	4.60	4.45	4.50	4.54	4.21	4.20	4.47	4.38	4.59
通年	2017	4.58	4.60	4.68	4.55	4.55	4.36	4.27	4.24	4.50	4.15	3.98	4.16	4.27	4.33
	2018	4.57	4.58	4.66	4.47	4.53	4.31	4.34	4.50	4.55	4.16	4.13	4.17	4.40	4.47
	2019	4.58	4.64	4.64	4.53	4.55	4.55	4.40	4.48	4.52	4.28	4.28	4.43	4.35	4.52

表3：2019年度授業評価ベーシック科目群結果（2017年、2018年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2017	4.64	4.80	4.87	4.66	4.75	4.73	4.33	4.44	4.74	4.09	4.09	4.33	4.58	4.56
	2018	4.77	4.86	4.83	4.56	4.72	4.63	4.30	4.52	4.61	4.34	4.38	4.54	4.58	4.69
	2019	4.82	4.82	4.78	4.69	4.65	4.60	4.51	4.53	4.64	4.64	4.60	4.59	4.62	4.60
秋学期	2017	4.66	4.68	4.74	4.57	4.58	4.52	4.31	4.41	4.55	4.19	3.99	4.48	4.49	4.53
	2018	4.55	4.67	4.72	4.41	4.35	4.30	4.01	4.01	4.39	4.36	4.27	4.27	4.34	4.39
	2019	4.61	4.69	4.67	4.36	4.46	4.53	4.12	4.20	4.55	4.39	4.31	4.34	4.31	4.37
通年	2017	4.65	4.72	4.78	4.60	4.64	4.59	4.32	4.42	4.61	4.16	4.02	4.43	4.52	4.54
	2018	4.65	4.76	4.77	4.48	4.52	4.45	4.14	4.25	4.49	4.35	4.32	4.39	4.45	4.53
	2019	4.69	4.74	4.71	4.49	4.53	4.56	4.27	4.32	4.58	4.49	4.43	4.43	4.43	4.46

表4：2019年度授業評価アドバンスト科目群結果（2017年、2018年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2017	4.59	4.67	4.69	4.43	4.64	4.60	4.59	4.42	4.61	4.24	4.20	4.45	4.55	4.45
	2018	4.65	4.77	4.78	4.41	4.70	4.58	4.48	4.55	4.67	4.36	4.45	4.58	4.61	4.74
	2019	4.76	4.80	4.79	4.53	4.71	4.61	4.44	4.65	4.71	4.39	4.33	4.51	4.65	4.58
秋学期	2017	4.67	4.67	4.78	4.51	4.47	4.59	4.71	4.58	4.60	4.38	4.36	4.58	4.63	4.58
	2018	4.57	4.72	4.70	4.33	4.56	4.56	4.48	4.47	4.55	4.34	4.31	4.42	4.55	4.50
	2019	4.64	4.66	4.79	4.52	4.29	4.49	4.71	4.49	4.42	4.39	4.42	4.33	4.38	4.38
通年	2017	4.62	4.67	4.72	4.45	4.58	4.60	4.63	4.47	4.60	4.28	4.25	4.49	4.57	4.49
	2018	4.61	4.75	4.74	4.37	4.63	4.57	4.48	4.52	4.61	4.35	4.38	4.50	4.58	4.62
	2019	4.71	4.74	4.79	4.53	4.54	4.56	4.55	4.59	4.59	4.39	4.36	4.44	4.54	4.50

また、表2から表4はコア、ベーシック、アドバンストの科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり2019年度は全体的に評価が上がり、概ね、高く評価して良い状況であるものと考えられる。唯一、アドバンスト科目群においては、対前年比で評価が低下した質問項目が散見されたが、いずれもごくわずかな低下であり、依然として、コア科目群やベーシック科目群を上回る評価を得ている質問項目も多いことから、大きな課題であると捉える必要はないであろう。

科目群間の比較では、コア科目に比べて、ベーシック科目、アドバンスト科目での高評価が目立つ。コア科目は必修のコースで構成されているためベーシック科目、アドバンスト科目に比べて授業評価結果が低くなる傾向にあるものと考えられる。また、アドバンスト科目に対する授業評価はベーシック科目よりも全体的にやや評価が高い傾向が伺われた。履修者の興味や関心次第で学習意欲に差がつき、これが授業評価結果に反映されているものと考えられる。逆にいえば、ベーシック科目、アドバンスト科目を履修する際の礎となるコア科目群に対する授業評価結果を、どのように向上させていくのかは、各担当教員に課された大きな課題であるものと考えられる。

個々の質問項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群すべてで質問項目2「The instructor was well prepared for the classes」、ないしは質問項目3「The

instructor's knowledge level was high enough to teach the course」が昨年同様最も高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価していることが伺われる。

一方、評価の低い評価項目は、コア科目群、アドバンスト科目群では、質問項目 10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」、および質問項目 11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」であった。学生の立場からすると、教員から明確に指示された課題をこなすだけで精一杯であり、自発的に追加の学習をしたか、と問われること自体が想定外である、ということなのかもしれない。逆にいえば、教員側で積極的にプラス・アルファの自主学習を動機付けていく必要があり、こうした取り組みが、より一層の学習効果の深化につながるものと考えられる。

これに対して、ベーシック科目群では、質問項目 7「The amount of work assigned was reasonable.」、および質問項目 8「The course was well prepared in terms of contents and time allocation」での低評価が目についた。課題の量やコース設計といった教員側の取り組みで改善が達成できる質問項目への評価が低い点は大きな問題である。これらの項目での評価が低いコースにおいて個別の取り組み、および改善を担保しうる仕組みが必要であろう。

B. 教員による授業評価アンケート

上述の授業評価アンケートの分析結果を受け、特に学生による高評価を獲得している科目を中心に、担当教員が、どのような工夫を施し、履修者の満足度の向上を実現しているのか、という観点から、担当教員の自己評価結果を分析し、学生による授業評価アンケートの評点が思わしくなかった科目との比較を行った。観測されたのは昨年度と概ね同様の傾向であり、すなわち両者の取り組み内容の間には大きな違いは観測されなかった。

まず前者の科目で共通して強調されているのは学生の活発な授業参画を担保する様々な仕組みである。学生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、長めの Q&A 時間の設定、(教員・学生間ではなく) 学生間の討議を仕掛ける、等が代表的なものである。その他、視聴覚教材の利用や、実務家教員を中心に自己の実務経験の積極的な共有、学生自身に自己の授業内のパフォーマンスを振り返らせる、などのアプローチも興味深いものと考えられた。

一方で、後者においても、学生による発言機会を増やすために、前回の授業のサマリーを学生に述べさせたり、履修者の間での知識レベルや、関心領域の違いを把握するために、開講時にサーベイを行ったり等、むしろ取り組み内容には学ぶべき点が多い科目も散見され、一概に担当教員の取り組み内容そのものが学生の満足度を左右しているとも言い切れない状況が見て取れた。

こうした観測結果の背景として考えられるのは、現在の教員による自己評価アンケ

ートの形骸化である。受講者の満足度を左右する要素を適確に把握できる手法では調査ができていないものと考えられるからである。一つの背景として考えられるのは、教員が自己評価アンケートに回答する際に、学生による授業評価アンケート結果と関連付ける形式が採用されていないことである。現在の自己評価アンケートは各最終授業の終了直後に実施されるため、学生による授業評価アンケートの集計結果を踏まえた回答にはなっていない。実質的には各教員による自己満足度の評価アンケートになっている側面が強いといっても良いかもしれない。本年度は、コロナ禍への対応に伴う必要に迫られて授業評価アンケートをオンラインで実施したが、この結果、集計時間は大幅に短縮できるであろう。各教員が、学生による授業評価アンケートの集計結果を吟味した上で、自己評価アンケートに回答する方式を試みる価値は小さくはないのではないかと考えられる。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、【設問 1】から【設問 9】が「教員の授業内容と方法」について、【設問 10】と【設問 11】が「学生自身の取組み」について、【設問 12】から【設問 14】が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（四捨五入）および【設問 13】とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

表 1：各設問の平均値と【設問 13】とその他の設問との相関係数

番号	設問文	2019 年度春学期		2019 年度秋学期	
		平均値	問13との相関係数	平均値	問13との相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿って いましたか。	4.7	0.64	4.8	0.72
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.7	0.69	4.7	0.70
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っ ていましたか。	4.8	0.57	4.8	0.66
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助け となりましたか。	4.7	0.69	4.7	0.59
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を	4.5	0.62	4.7	0.61

	払いましたか。				
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	4.6	0.77	4.6	0.72
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.6	0.60	4.7	0.56
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.6	0.70	4.7	0.73
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.7	0.67	4.7	0.73
10	この授業を受けるに当たって予習や復習を積極的に行いましたか。	4.5	0.60	4.5	0.64
11	この授業を受けるに当たって担当教員が示した参考文献に当たりましたか。	4.3	0.47	4.5	0.46
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	4.5	0.74	4.6	0.77
13	*この授業は全般的に満足のいくものでしたか。	4.6		4.7	
14	この授業は今後の学習にとって有意義なものですか。	4.7	0.86	4.7	0.84

(2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を平均したもの（四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2019 年度にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

表 2：専攻平均値の推移

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
春学期	4.3	4.6	4.6	4.7	4.6	4.6
秋学期	4.4	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6
	2017 年度	2018 年度	2019 年度			
春学期	4.6	4.5	4.6			
秋学期	4.5	4.6	4.7			

専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度から2011年度までは4.3から4.5という値を記録してきた。2012年度以降は、4.5以上を保ち続けている。このように近年は、総合的な評価としては高位での安定が図られているものと言ってよいであろう。また、2019年度は、春学期も秋学期も、昨年度と比べて0.1ポイント改善している。

(3) 個別評価

① 教員の授業内容と方法（【設問1】～【設問9】）

専攻全体に関しては、2019年度はこれまでと同程度の比較的高い水準を維持している。

【設問1】から【設問4】の評点は4.7以上と高いことから、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。【設問9】も高いが、これは各科目の受講者が少人数となり、より質問をし易い環境が形成された可能性が考えられる。

表3：【設問1】から【設問9】の平均値

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
(専攻全体)									
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.6	4.8
2014年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2015年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2017年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.7
2017年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.7
2018年度春学期	4.6	4.7	4.7	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6
2018年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6
2019年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
(コア科目)									
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6
2012年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	4.7
2014年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8

2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.7	4.7
2015年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7
2015年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7
2017年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.5	4.4	4.4	4.4	4.6
2017年度秋学期	4.7	4.6	4.7	4.5	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5
2018年度春学期	4.6	4.6	4.7	4.6	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5
2018年度秋学期	4.6	4.6	4.7	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5
2019年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6
(ベーシック科目)									
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9
2014年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	5.0	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.9
2015年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.9	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
2016年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
2016年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2017年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8	4.6	4.7	4.7	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7
2018年度春学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2018年度秋学期	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7
2019年度春学期	4.8	4.7	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7
2019年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
(アドバンスト科目)									
2012年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9
2012年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2013年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2014年度春学期	4.9	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.9
2014年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8
2015年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.9
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8
2016年度春学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.6	4.6	4.8
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.8
2017年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.6	4.9	4.7	4.5	4.6	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.8
2018年度春学期	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.5	4.4	4.5	4.7
2018年度秋学期	4.8	4.8	4.8	4.7	4.8	4.6	4.5	4.6	4.7
2019年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8

2019年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.9
-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【設問 5】から【設問 9】については、上記設問に比して相対的には低い評点となっている。この傾向は例年変わっていない。

授業の難易度及び受講人数の影響は、科目群ごとの結果から調べられる。科目群ごとの評価に関しては、例年の全体的な傾向として、コア科目は低めに、そしてアドバンスト科目は高めの結果が出やすい。ただし、2019年度は、コア科目の評点が改善している。特に、コア科目の【設問 5】～【設問 9】は、例年と比べても大きく改善している。

一般論として、コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこでは、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、会計士・税理士をめざすプログラムの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂等によって増加している傾向にある。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時においては、学生が授業内容および課題の取組みにとりわけ負荷を感じていることと考えられる。

さらに、コア科目は1年生が主に受講しているが、入学時点での会計知識の水準がばらついていることも影響している。会計知識のある学生からすれば、ただの復習程度の内容に止まり、その一方、知識のあまりない学生からすれば、難しすぎるとして不満が出やすい構造である。しかも、コア科目は受講生の人数が比較的多いため、個別的な対応が難しい。

このような問題を抱えているため、コア科目は一般的に評点が低めに出やすいのであるが、2019年度に大きな改善が見られるということは、教員が授業方法について色々と改善、例えば学生の会計知識水準のばらつきなどに対して何らかの改善策を実行するなど、をしていったからかもしれない。いずれにせよ今後は、この改善を一時的なものにせず、この評点の水準を維持し続けることが求められる。

② 学生自身の取組み（【設問 10】・【設問 11】）

「学生自身の取組み」を問う【設問 10】と【設問 11】の評価に関して、例年、他の設問に比して常に低くなっている。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものとも言えよう。特に、【設問 11】の評点はほぼ毎回、全ての設問の中で最も低いものとなっている。しかし、2019年度は、例年よりも改善している。これは、学生自ら文献を探すなどの努力を促す取組みが実を結び始めたのかもしれない。この点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育一般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも積極的に取り組みたい

点である。

【設問 10】に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して実践することが考えられる。特に、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも必要であろう。【設問 11】に関しては、【設問 4】とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をする取り組みを今後も維持することが必要であると考えられる。

表 4：【設問 10】から【設問 14】の平均値

	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)					
2012 年度春学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013 年度春学期	4.2	3.9	4.3	4.6	4.6
2013 年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.7
2014 年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.8	4.8
2014 年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015 年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.7	4.8
2015 年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.7	4.7
2016 年度春学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2016 年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2017 年度春学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.7
2017 年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.6
2018 年度春学期	4.3	4.3	4.4	4.5	4.6
2018 年度秋学期	4.4	4.3	4.5	4.6	4.7
2019 年度春学期	4.5	4.3	4.5	4.6	4.7
2019 年度秋学期	4.5	4.5	4.6	4.7	4.7
(コア科目)					
2012 年度春学期	4.1	3.8	4.2	4.5	4.6
2012 年度秋学期	4.1	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度春学期	4.2	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度秋学期	4.4	4.1	4.3	4.6	4.7
2014 年度春学期	4.3	3.9	4.3	4.7	4.8
2014 年度秋学期	4.1	4.0	4.4	4.7	4.7
2015 年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.7	4.7
2015 年度秋学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016 年度春学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016 年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6
2017 年度春学期	4.2	4.0	4.3	4.6	4.7
2017 年度秋学期	4.3	4.0	4.2	4.4	4.5

2018年度春学期	4.3	4.2	4.3	4.5	4.5
2018年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.5	4.5
2019年度春学期	4.5	4.3	4.4	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6
(ベーシック科目)					
2012年度春学期	4.2	4.1	4.3	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.3	4.0	4.5	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.5	4.3	4.5	4.8	4.8
2014年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.4	4.1	4.6	4.8	4.9
2015年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.8	4.7
2016年度春学期	4.5	4.4	4.5	4.7	4.8
2016年度秋学期	4.3	4.2	4.4	4.7	4.7
2017年度春学期	4.4	4.3	4.5	4.8	4.8
2017年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.6	4.7
2018年度春学期	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7
2018年度秋学期	4.4	4.3	4.6	4.7	4.7
2019年度春学期	4.5	4.4	4.6	4.7	4.7
2019年度秋学期	4.5	4.5	4.6	4.7	4.7
(アドバンスト科目)					
2012年度春学期	4.3	4.3	4.6	4.8	4.8
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.8
2014年度春学期	4.3	4.2	4.6	4.9	4.9
2014年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.9
2015年度春学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2016年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.6	4.6
2016年度秋学期	4.5	4.4	4.6	4.7	4.7
2017年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.7	4.7
2017年度秋学期	4.1	4.0	4.5	4.7	4.7
2018年度春学期	4.5	4.4	4.4	4.5	4.6
2018年度秋学期	4.4	4.4	4.6	4.7	4.7
2019年度春学期	4.2	4.3	4.5	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.6	4.5	4.7	4.8	4.8

③ 授業の満足度 (【設問 12】～【設問 14】)

【設問 12】から【設問 14】の評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものである。

専攻全体で見ると、【設問 12】～【設問 14】の2019年度の評点は他の設問と同じく、改善

傾向が見られる。

科目の難易度による違いをみると、【設問 12】～【設問 14】では、コア科目の評点がベーシック科目やアドバンスト科目の評点と比べて若干低くなっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎知識を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、授業方法等に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

すべての科目で重要なことではあるが、特にコア科目に関しては、適切な教科書の指定や教材の開発・準備のもと、授業内容の水準、量（予習・復習、学生自身の取組みを促す課題などを含む）、そして授業時間とのバランスを図り、個々の学生の内容理解の水準に応じたフォローを行いながら、より分析能力・批判力を涵養する授業を実践していくことの重要性が引き続き指摘できよう。

B. 教員による担当科目自己評価

2019 年度から、教員の担当科目自己評価はオンラインで実施されることになり、それにもない、質問事項も大幅に変更された。設問は次のとおりである。

<選択回答>

1. 授業はシラバスに示した主題や目的に沿って行いましたか。
2. 学生が発言したり議論したりすることに十分配慮を払いましたか。
3. 個々の学生の内容理解の水準を考慮しましたか。
4. 学生の質問に丁寧に答えましたか。
5. この授業で学生の分析能力や批判力がついたと思いますか。
6. この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか。
7. この授業は学生の仕事や資格の取得に役立つものと考えられますか。
8. この科目を担当するにあたって力を入れたことは何ですか。（複数選択可）
9. 上記 1～8 の回答を踏まえて、この科目を担当するにあたって当初予定していた目標は達成されたと思いますか。

回答は、【設問 8】以外は、

- 5：そう思う
- 4：だいたいそう思う
- 3：どちらとも言えない

- 2：あまりそう思わない
- 1：そう思わない
- NA：該当しない

から一つを選択する。

また、【設問8】は、

- 学生の理論の理解を促す
- 学生の思考力の向上を図る
- 学生の学習への自発性を促す
- 学習内容の理解の定着を図る
- 学生間の相互学習を促す授業運営
- 学習内容の実務への応用性
- 理論と実践のバランスを考えた授業の構成
- その他

から該当するものを選択する（複数選択可）。

<記述回答>

1. この科目において、実施してよかった点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。
2. この科目において、改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。

<選択回答>の回答数は次のとおりであった。

表5：教員による担当科目自己評価<選択回答>

(専攻全体)	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問9
5 そう思う	97	61	39	89	29	52	64	59

4 だいたいそう思う	35	41	78	36	91	72	60	67
3 どちらとも言えない	0	8	13	0	7	7	4	4
2 あまりそう思わない	0	2	1	0	1	0	0	0
1 そう思わない	0	1	0	0	1	1	0	1
NA 該当しない	0	19	1	7	3	0	4	1
合計	132	132	132	132	132	132	132	132
平均値	4.7	4.4	4.2	4.7	4.1	4.3	4.5	4.4

(コア科目)	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 9
5 そう思う	34	8	7	29	6	16	18	17
4 だいたいそう思う	13	22	32	17	37	28	28	28
3 どちらとも言えない	0	6	8	0	3	3	0	1
2 あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	0	0
1 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
NA 該当しない	0	10	0	1	1	0	1	1
合計	47	47	47	47	47	47	47	47
平均値	4.7	4.0	4.0	4.6	4.1	4.3	4.4	4.3

(ベーシック科目)	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 9
5 そう思う	35	23	11	29	8	18	24	19
4 だいたいそう思う	10	9	27	10	31	24	18	22
3 どちらとも言えない	0	2	5	0	2	2	0	3
2 あまりそう思わない	0	1	1	0	1	0	0	0
1 そう思わない	0	1	0	0	1	1	0	1
NA 該当しない	0	9	1	6	2	0	3	0
合計	45	45	45	45	45	45	45	45
平均値	4.8	4.4	4.1	4.7	4.0	4.3	4.6	4.3

(アドバンスト科目)	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 9
5 そう思う	28	30	21	31	15	18	22	23
4 だいたいそう思う	12	10	19	9	23	20	14	17
3 どちらとも言えない	0	0	0	0	2	2	4	0

2 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
NA 該当しない	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	40	40	40	40	40	40	40	40
平均値	4.7	4.8	4.5	4.8	4.3	4.4	4.5	4.6

設問 8	専攻全体	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
学生の理論の理解を促す	93	31	38	24
学生の思考力の向上を図る	63	17	25	21
学生の学習への自発性を促す	64	17	22	25
学習内容の理解の定着を図る	89	29	35	25
学生間の相互学習を促す授業運営	21	2	7	12
学習内容の実務への応用性	52	8	15	29
理論と実践のバランスを考えた授業の構成	30	3	11	16
その他	7	3	3	1

【設問 1】（以下、【教員設問 1】と表記）は、学生に行った授業評価アンケートの【設問 1】（以下、【学生設問 1】と表記）と対応している。これを見ると、教員は概ね、どの難易度の科目であっても高く評価（4.7～4.8）しており、また、学生の評価も、2019 年度春学期・秋学期は、どの難易度の科目でも概ね 4.7～4.8 と、高く評価している。

よって、この【設問 1】に関しては、非常に好ましい結果となっている。

【教員設問 2】は、【学生設問 5】と対応している。教員側の回答では、コア科目において低い評価（4.0）となっている。これは、コア科目では、どうしても講義形式の授業が多くなるため、一方通行の説明になりやすいことが影響していると思われる。逆に、ベーシック科目やアドバンスト科目では、ディスカッション形式の授業も増えるので、教員側は高い評価（ベーシック科目 4.4、アドバンスト科目 4.8）が多い。

実際、この評価は学生側でも同様の傾向が見られる。2019 年度のコア科目では春学期 4.5 と秋学期 4.6 であるが、ベーシック科目は同 4.6 と 4.6、アドバンスト科目では同 4.6 と 4.8 となっている。

よって、講義形式の授業であっても、できる限り学生が発表したり議論したりする環境

を整えることが望まれる。

【教員設問 3】は、【学生設問 6】と対応している。教員側の回答では、全体としてやや低めの評価であるが、授業難易度によってはっきりと傾向が異なっている。コア科目は低く（4.0）、ベーシックは中間（4.1）、アドバンスト科目は高く（4.5）評価されている。

学生側でも概ね同様の評価である。2019年度のコア科目では春学期 4.5 と秋学期 4.5 であるが、ベーシック科目は同 4.7 と 4.6、アドバンスト科目では同 4.6 と 4.7 となっている。

これは、アカウンティングスクールという性格を考えたとき、コア科目ではどうしても一定水準の授業を展開しなければならず、また履修がほぼ必須のような授業が多い。そのため、授業についていけない学生が一定数履修しているし、また、だからといって授業難易度を下げることが難しいという、科目の特性が明確に反映された結果といえる。ベーシック科目やアドバンスト科目では、苦手な学生はそもそも履修しないことが多いし、また、学生の理解度に応じて授業の難易度を適宜調整しやすいので、結果として教員側でも学生側でも、比較的高い評価となっている。

【教員設問 4】は、【学生設問 9】と対応している。これも、教員側の回答も学生側の回答も同じ傾向を示している。つまり、コア科目は低めに（教員側で 4.6、学生側で春学期 4.7、秋学期 4.6）、ベーシックは中間（教員側で 4.7、学生側で春学期 4.7、秋学期 4.7）、アドバンスト科目は高め（教員側で 4.8、学生側で春学期 4.8、秋学期 4.9）に出ている。

これも、コア科目は講義形式が多く、教員が一方向的にしゃべることが多くなってしまふことや、アドバンスト科目では学生と教員とのディスカッション形式の授業が多いこと、などが関係していると思われる。

【教員設問 5】は、【学生設問 12】と対応している。教員側の回答も学生側の回答も、総じて低めではあるが、コア科目が低めに（教員側で 4.1、学生側で春学期 4.4、秋学期 4.5）、アドバンスト科目が高めに（教員側で 4.3、学生側で春学期 4.5、秋学期 4.7）評価される傾向も、他の設問と変わらない。

【教員設問 6】は、【学生設問 13】と対応している。教員側の回答も学生側の回答も、わずかではあるが、コア科目が低めに（教員側で 4.3、学生側で春学期 4.6、秋学期 4.6）、アドバンスト科目が高めに（教員側で 4.4、学生側で春学期 4.6、秋学期 4.8）評価される傾向も、他の設問と変わらない。

【教員設問 7】は、設問の文章の表現が異なっているが、【学生設問 14】と対応している。教員側の回答も学生側の回答も、非常にわずかではあるが、コア科目が低めに（教員側で 4.4、学生側で春学期 4.7、秋学期 4.6）、アドバンスト科目が高めに（教員側で 4.5、学生側で春学期 4.7、秋学期 4.8）評価される傾向も、他の設問と変わらない。

以上、【教員設問 1】～【教員設問 7】を、学生側の回答と比較してみると、全体的な傾向は、概ね、教員側と学生側とで一致しているようである。

【教員設問 8】では、授業の中で力を入れた点を、選択形式で質問している。これを見ると、「理論の理解を促す」・「理解の定着を図る」との回答はどの授業難易度でも総じて多い。

また、「学生間の相互学習」・「実務への応用性」・「理論と実務のバランス」との回答は、コア科目では少なく、アドバンスト科目になるにつれて増えていく傾向がはっきりと観察される。これは、コア科目では基礎的な理論を講義形式で授業し、アドバンスト科目になるにつれて専門的・応用的なテーマが増え、授業もディスカッション形式が増えてくる、という科目の特性を明確に反映している。

【教員設問 9】は、教員が当初予定していた授業目標を、達成したかどうかを質問している。これも、コア科目は低めに（4.3）、アドバンスト科目は高めに（4.6）評価されている。

まとめると、全体的に、コア科目の評価は低めに、そしてアドバンスト科目の評価は高めに評価されることが多い。また、教員側と学生側とで、評価の傾向は概ね一致している。

<記述回答>では、【記述設問 1】この科目において、実施してよかった点は何ですか、【記述設問 2】この科目において、改善・工夫をした方がよい点は何ですか、を自由記述形式で回答してもらっている。自由記述形式なのは、教員の自由な意見を集めるためである。

以下では、各設問に対する回答の全体的な傾向を把握するために回答内容を分類し、これに基づいて分析を行っている。ただし、次のような制約、限界がある点に留意されたい。まず、分類にあたっては回答の文言よりもその趣旨に基づいているが、各設問の回答は自由記述形式であるため、その判断が主観的なものとならざるを得ない部分がある。また、全体的な傾向を明らかにするため、回答が 1 つもしくは 2 つの場合には、表には含めていない。

【記述設問 1】 担当科目において実施してよかった点

担当科目において実施してよかった点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表 6：担当科目において実施してよかった点に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
小テスト・中間テストの実施	43%	40%	—
宿題・レポートなどの課題	28%	27%	10%
要点を得た、もしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成	17%	9%	8%
基礎知識や重要論点の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導	11%	13%	20%
事例・実務に則した授業（ゲストスピーカーやケーススタディの工夫も含む）	—	31%	30%
理論解説、実務解説、演習などのバランスの工夫	11%	11%	5%
テスト・課題に対するコメントのフィードバック	4%	2%	—
学生による課題報告や発言、ディスカッション	9%	4%	15%
双方向な授業の実践	4%	11%	10%
グループワーク、グループディスカッション	2%	2%	10%
パワーポイント等の ICT 機器の使用	9%	2%	—

コア科目では、「小テスト・中間テストの実施」が最も多く、これは、【教員設問 8】を踏まえた基礎的・体系的知識の定着を図るために実施されているものと考えられる。また、これに関連して、「宿題・レポートなどの課題」や「要点を得たもしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成」との回答が次に多かった。

ベーシック科目では、コア科目と同様に、知識の定着を図るための取組みに加えて、「事例・実務に則した授業」と「理論解説、実務解説、演習などのバランスの工夫」の回答が増えている。これはベーシック科目では、理論と実務の両方が重視される科目が多いためであろう。

アドバンスト科目においても、ベーシック科目と同様に、「事例・実務に則した授業」の回答が多いが、それだけにとどまらず、「学生による課題報告や発言、ディスカッション」や「双方向な講義の実践」も多い。これは、アドバンスト科目では、一般的な講義形式ではなく、演習形式の授業が多いことを意味している。

また、今年度は、アドバンスト科目において「基礎知識や重要論点の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導」との回答が多かった。その分野の基礎的知識をすでに有している学生に対して応用的な議論をするというアドバンスト科目の性格上、例年、この回答はアドバンスト科目ではあまり多くない。しかし、2019年度は多くの教員がこれを回答している。

これはもしかしたら、本来、そのアドバンスト科目を履修するだけの水準に達していない学生が受講したため、やむを得ず授業の水準を下げて、基礎的事項から丁寧な解説を行ったからかもしれない。

【記述設問2】担当科目について改善・工夫をした方がよい点

担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表7：改善・工夫をした方がよい点に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善	11%	11%	3%
講義（解説）・演習などの時間配分	15%	11%	5%
学生の能力・予備知識・理解度の差への対応	13%	9%	35%
双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み	13%	13%	8%
学生による自発的学習の促進	4%	2%	5%
授業で扱うトピックの選定、及び質と量のバランス	13%	16%	33%
演習問題や課題の内容の改善	4%	16%	5%
小テストや課題などの実施、または量の改善	—	11%	—
特になし	6%	13%	—

コア科目では、「レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善」、「講義（解説）・演習などの時間配分」、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」、「双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み」、「授業で扱うトピックの選定、及び質と量のバランス」を挙げた回答が比較的多かった。ただし、回答がどこかひとつの回答に集中しているわけではなく、かなりばらついており、教員によって課題は様々な様である。このばらつきの傾向は、ベーシック科目でも同様である。

アドバンスト科目では、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」、「授業で扱うト

ピックの選定、及び質と量のバランス」に回答が集中している。アドバンスト科目では種々の応用ケースなどを扱うため、トピックの選定において、教員側の裁量の余地がかなり大きい。このため、授業で扱うトピックの選定に悩むのは当然である。

どの難易度の授業でも、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」は、例年多い回答ではあるが、今年度は特にアドバンスト科目において多くの回答があった。コア科目では、その分野の初学者が受講することも多いため、受講する学生の予備知識に差が生じやすいこと、そして、アドバンスト科目では、予備知識がその科目が求めている水準に達していない学生が多く受講してくることが問題となっている。様々なレベルの学生が混在する中で、どのように授業を行うかが、大きな課題となっている。

教員による担当科目自己評価の特徴と今後への示唆

以上を踏まえ、アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取組みの特徴と今後の改善・工夫への取組みの方向性とさらなる課題として、次の諸点が挙げられる。

まず、コア科目に関しては、特に基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれており、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施や、宿題・レポートなどの課題の実施とともに、独自のレジュメ・配布資料を作成するといった取組みが行われている。

ベーシック科目では、理論と実務（実践）例が両方とも重視される科目が多い。そのため、その分野の基礎的・体系的な知識の修得に力を入れている科目もあれば、比較的高度な水準の知識・能力の修得に力を入れている科目もある。

このように、どこに重点を置くかが、教員や科目によって多少異なっているが、一般的に、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートの実施、事例・実務に則した授業、理論解説・実務解説・演習などのバランスの工夫、双方向性のある授業などは、実施してよかったとの回答が多い。今後も、科目ごとに様々な取組みが行われるだろう。

アドバンスト科目では、本来、基礎的・体系的な知識を既に有している学生を対象にして、その応用能力を高めることが目標である。そのため、例年は、基礎知識や重要論点の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導などはほとんど重視されてこなかった。しかし、今年度は、これが比較的多く行われている。

また、多くの授業、特にアドバンスト科目の授業で、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」が必要、との回答が、(例年、この回答は多いのだが、)今年度は特に多かったことと併せて考えると、今年度は、特にアドバンスト科目において、その授業が要求する水準に達していない学生が多く受講してきたため、やむを得ず、授業の水準を引き下げ

た授業が多かったものと思われる。

この対応は、学生にとって有益であることは確かである（だから、アドバンスト科目に対する学生からの授業評価は、概ね高い）。しかし、これは本学のアカウンティングスクールが想定するレベルでないこともまた確かである。

今後は、会計・経営などの専門知識をあまり有していない学生を、2年間の教育でどれだけ引き上げられるか、が教員にとっての課題となるだろう。アドバンスト科目であっても、基礎的なところから丁寧に解説する、今年度のような取り組みは重要であるが、それが単純な授業水準の引き下げに留まってしまえば、あまり好ましいとはいえない。学生の成長を促すような取り組みが、今後は重要になってくるだろう。

6. 今後の課題

A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

今年度の授業アンケートでは、コア科目、ベーシック科目、アドバンス科目のほぼ全ての設問において、過去の11年の平均は上回っているものの、2018年度との比較においては、特に秋学期の評点が下がっている。また、個別の科目を見るとバラツキがあり、スコアの低い科目個別の改善を目指す必要があるであろう。特に満足度に関する質問群である設問12, 13, 14のいずれかが4.0を下回る授業数が春学期で3件、秋学期で9件あり、また昨年度の平均を設問あたり平均0.5ポイント以上下げた科目が、春学期で9件、秋学期で11件あり個別の問題点を十分に吟味し来年度の改善を図る必要がある。

一方で教員の自己評価アンケートは、すべての設問で満足のいく内容と答えている割合が高いものの、学生アンケートとの突き合わせ評価ができておらず、また学生評価が低い科目も少なからずとも存在することを考え合わせると、単なる自己満足に終わっている科目の存在も否定できない。

以上の課題を解決するために、学生・教員双方の評価アンケートの結果をより有効に活用することが必要で、具体的には以下に示す方策を検討することが急務である。

- ・学生/教員がアンケートの結果を閲覧できる仕組みの構築
- ・学生アンケートと教員アンケートを系統的に連動させたギャップ分析の実施
- ・個別科目に関する過去5年間の時系列分析の実施。
- ・問題のある個別科目を改善するための組織的な対策。
- ・事務/教員がアンケートを手動で集計しなければならない無駄の排除。

B. 国際経営コース

2019年度の授業評価を受けて、最も重要な今後の課題として指摘できるのは、質問項目7「The amount of work assigned was reasonable.」、および質問項目8「The course was well prepared in terms of contents and time allocation」での低評価を受けたベーシック科目での改善であろう。課題の量やコース設計などは、教員側の取り組みで、比較的、容易に改善が達成できる点であるものと考えられる。教員全員で、これらの項目での授業評価の改善の必要性を共有した上で、特に評価結果が思わしくなかった科目の担当者に対する個別の改善を働きかけていく必要も検討すべきであろう。

また自己評価アンケートの実施方法の再考も重要な課題であるものと考えられる。アンケートの実施自体が自己目的化している側面もあるように思われ、アンケート結果を実質的な改善につなげうる方策を試行すべきであると考えられる。アンケートの実施、集計方法に関しては、個々の科目に対する授業評価結果を履修者の専攻領域別に分析するためのデータ整備も必要であろう。ここ数年、交換留学生の履修者も増えているので、正規学生と区別して分析する必要もあるかもしれない。いずれも現在のデータでは充分に対応できない分析視覚になるので、今後の授業評価アンケートの活用方法の一つの検討課題になろうかと考えられる。

C. 会計専門職専攻

会計専門職専攻では、2019年度の学生による授業評価は概ね高く、満足のいく結果となっている。コア、ベーシック、アドバンスト科目と、授業の難易度が高くなるにつれて、アンケート結果も良くなっている。また、教員による評価と、学生による評価も、概ね同じ傾向を有していて、大きな齟齬はない。

アドバンスト科目では、本来、基礎的・体系的な知識を既に有している学生を対象にして、その応用能力を高めることが目標である。そのため、例年は、基礎知識や重要論点の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導などはほとんど重視されてこなかった。しかし、今年度は、これが比較的多く行われている。

また、多くの授業、特にアドバンスト科目の授業で、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」が必要、との回答が、(例年、この回答は多いのだが、)今年度は特に多かったことと併せて考えると、今年度は、特にアドバンスト科目において、その授業が要求する水準に達していない学生が多く受講してきたため、やむを得ず、授業の水準を引き下げた授業が多かったものと思われる。

この対応は、学生にとって有益であることは確かである(だから、アドバンスト科目に

対する学生からの授業評価は、概ね高い)。しかし、これは本学のアカウンティングスクールが想定するレベルでないこともまた確かである。

今後は、会計・経営などの専門知識をあまり有していない学生を、2年間の教育でどれだけ引き上げられるか、が教員にとっての課題となるだろう。アドバンスト科目であっても、基礎的なところから丁寧に解説する、今年度のような取り組みは重要であるが、それが単純な授業水準の引き下げに留まってしまえば、あまり好ましいとはいえない。学生の成長を促すような取り組みが、今後は重要になってくるだろう。

D. 総評

今回の報告書から経営戦略専攻の企業経営戦略コースと国際経営コース、会計専門職専攻の3つに分けてそれぞれの問題点を指摘してもらっている。全体としてPDCAサイクルが緻密に確立するところまでには工夫が必要であるが次の2点はすぐにでも手が付けられると思われる。まず、共通している問題は学生の質のばらつきにどの様に対応するかということである。企業経営戦略コースでは、「統計学」の必修化にたいして学生インタビューにおいて問題が提起されているが、内容的なものなのか技術的な問題なのかを検討する必要がある。

専門職大学院ではますますビジネスの現場における高度な実践力を支える知識、理論、技能が求められている。技能習得の段階的な連続性を確保するためには一定の時間が必要であり、eラーニングなどの導入も考える余地があるだろう。

国際経営コースでは、学生からもディスカッションを踏まえた講義が望まれている。この点は、実際の能力開発を考えると初学者の能力を考えると反転学習などの仕組みを作ることも重要であろう。

会計専門職専攻では、学生の予備知識のばらつきが指摘されており、この問題は社会人、留学生も含めて多様な学生を入学させている以上は避けて通れないであろう。今回の報告書では詳細な検討がされているので、研究科全体の問題として対応策を立てることが必要となっている。

最後に、本報告書の元になっている各データの活用について2019年度を通して検討をする予定である。学生へのインタビューの活用も含めて来年度の報告書の課題としたい。

以上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
内部質保証委員会

コンビナー 山本 昭二

